

市民公開講演会

食卓が家族を救う

2013年1月12日(土) 京都大学・東京オフィス会議室 午後1時~4時

【講演内容】

食事が家族を結びつける

山極壽一(京都大学・理学研究科・教授)

トマトが赤くなると医者が青くなる

河田照雄(京都大学・農学研究科・教授)

食事が環境ストレスから体を守る

渡邉正己(京都大学・名誉教授)

【パネル討論】

家族で摂る食事が日本を救うか?

司会:江口敏(フリージャーナリスト)

パネリスト:山極壽一、河田照雄、渡邉正己

【参加費】

無料 (定員:先着120名)

【参加受付】

京都大学放射線生物研究センター 下記のメイルアドレスあるいはファクシミリ 番号へお申し込みください。(担当:渡邉)

uketsuke@rbnet.jp fax.075-753-7568 URL: http://rbnet.jp/shoku.html

【共催】

京都大学、公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団、科学技術振興機構 日本放射線影響学会



〒108-6027

東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟27階

TEL: 03-5479-2220 FAX: 03-5479-2221



山極 壽一 JUICHI YAMAGIWA 昭和27年東京都生 京都大学教授



河田 照雄 TERUO KAWADA 昭和28年京都府生 京都大学教授



渡邉 正己 MASAMI WATANABE 昭和23年岐阜県生 京都大学名誉教授

金沢大学大学院薬学研究 科修了。薬学博士。専門 は、放射線による細胞がん化機構の研究。発がん はDNA損傷を起源としない経路が 経路の他に、DNA損傷を 起源としない経路がある とする新説を提唱。 高原発事故後、国民に対 する放射線健康影響の Q&A講演会を主催し、平 成24年11月末までに53 回を実施。



江口 敏 TSUTOMU EGUCHI 昭和22年岐阜県生 フリージャーナリスト

【開催趣旨】

我が国では、高度成長期以降、核家族化が進むとともに父親不在の家庭が多くなってきているといわれ、そのことが、我が国の家族制度を崩壊させ、ひいては社会構造に深刻な歪みをもたらしていると考えられています。特に、平成23 年3 月11 日の東日本大震災およびそれに引き続き起きた福島原発事故によって多くの家族が離散しています。加えて、放射能汚染による食に対する根強い不安が家族崩壊に拍車をかけていると指摘されています。こうした背景にあって、今回の市民公開講演会は、長年にわたりゴリラ社会における家族研究で世界をリードしてきた動物行動学者、山極壽一の「家族の基盤は一緒に食事をとることにある」という主張を基調として、農学者の河田照雄がヒトの健康に役立つ食品に関する情報、生物学者の渡邉正己が食によるストレス応答機能活性化に関する情報を提供し、食を介して我が国において健やかな家族形態を取り戻すためのメッセージを発信するために企画しました。

【スポンサーシップ】

この講演会は独立行政法人科学技術振興機構の平成24年度科学技術コミュニケーション推進事業「リスクに関する科学技術コミュニケーションのネットワーク形成支援」プログラムおよび公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団の平成24年度福島原発事故支援プロジェクトの支援を受けて実施しています。